

**第4回長崎大学高度安全実験(BSL-4)施設設置に関する有識者会議
議事要旨**

- 1 日時 平成27年6月3日(水) 15:00～16:30
- 2 場所 長崎大学グローバルヘルス総合研究棟4階 中セミナー室1
長崎大学東京事務所(TV会議)
- 3 出席者 8名
加藤史子、西條政幸、滝順一、朝長万左男、福崎博孝、蒔本恭、宮崎辰弥、
山下肇
- 4 列席者
長崎大学：調漸、安田二郎、宮崎泰司、嶋野武志、堀尾政博
(オブザーバー)
長崎県：長崎県福祉保健部医療監・大塚俊弘、福祉保健部医療政策課総括課長補
佐・岩崎次人
長崎市：企画財政部都市経営室主幹・古賀陽子、市民健康部地域保健課長・高木
規久子
その他オブザーバー
- 5 議事
地域と共生するBSL-4施設の設置運営、論点整理等
 - (1) 資料2「有識者会議における委員からのご質問および追加のご質問に対する
回答説明」、資料3「地域と共生するBSL-4施設の設置運営について」、資料4
「これまでの議論を振り返って(論点整理)」について説明した。(公開)
 - (2) 討議(非公開)
概ね次のような質疑応答があった。
(※ ○は委員。●はオブザーバー。△は事務局の長崎大学。)
○ 質問6の回答で、赤字の部分について、今の記載では、仮に九州管内でエ
ボラ出血熱の疑い例が発生した場合、患者が長崎に搬送されてくるのかどう
かよくわからない。「治療支援が可能となる」という表現の意図するところ
を明確に記載していただきたい。
△ 前回の議論に基づき追加したところであるが、患者が長崎に集まるのでは
ないかとの懸念を抱かれる記載になっているので、表現を工夫したい。
○ 例えば、福岡県で疑い例が発生した場合、その方は福岡県の第一種感染症
指定医療機関に入院し、検体だけが長崎大学に運ばれ検査を行うという趣旨
の「治療支援」なのか。
△ 制度上、患者をどこに搬送するかはその地方自治体が判断することにな
っている。
○ 基本的には、患者は発生した都道府県の最寄りの第一種感染症指定医療機
関に搬送されると考えていいのか。
○ その通り。

○ 質問10の建物の亀裂と実験動物の逃走防止のところであるが、実験動物
の大きさを明記しないと、説得力がないのではないか。例えば、マウスより
も小さい動物は予定していないのか。
△ 現在予定しているのは、マウス、ラット、モルモット、ハムスター、サル
等である。

- 資料4のP2に「これまでのところそうした「適地」のご提案はない」と記載されているが、誰から誰に対しての提案を意味しているのか。一般の方がこの文章を見た時に、適地を探すのは設置主体である長崎大学ではないのか、と思うのではないか。
- 住民の不安も理解できるが、病原体は漏れることはないし、実験動物も逃走することもなく安全であるということを住民に理解してもらうことが前提であって、その上で、安定したインフラ供給等の条件を考慮すれば坂本キャンパスが最適であるという考え方がいいのではないか。
安全面からも施設の機能面からも、今計画しているところが最適であるということをしっかり伝えることが重要であり、「他に適地があれば検討する」とは記載しない方がよい。
- △ 我々としては、いかなる提案があっても、結果として前回提示した候補地に勝る候補地はないと思い、また事実として何か提案があったわけでもないので、このような記載にしたものである。
- BSL-4 施設の候補地はこしかなく、治療やその他の面などからも地域住民の方々に納得していただける条件が揃っている坂本キャンパスを検討して欲しいということがそもそもの経緯ではなかったのか。「他に適地があれば検討する」ということであれば、地元自治会の関係者が本会議にオブザーバーとして出席する意味がない。
- △ 大変力強いご意見をいただき、ありがたい。本学としても一貫して現候補地しかないと考えている。有識者会議がその結論でよいということであれば、是非そうさせていただきたい。
- 柔軟さが必要な時もあるが、ブレてはいけないところはブレないで欲しい。再度、表現を検討し、今大学が考えている坂本キャンパスに設置する必要性を記載して欲しい。
- 資料3-1の1(2)②に「有識者会議の検討結果について公開説明会や公開討論会の開催を検討する」と記載されているが、具体的にどうしているのか。
- △ 従来から坂本キャンパス近隣の自治会に対する説明会を実施してきた。実施形態は検討中であるが、有識者会議から示された検討結果をお示しする説明会などを開催したいと考えて記載したもので、具体的には、よくご相談したい。
- 有識者会議で論点整理を取りまとめたからの開催になるのか。
- △ 有識者会議のご意見を取りまとめていただいてから、その結果を住民の方々にお知らせする機会があつてしかるべきと考えている。
- 昨年のエボラ出血熱の世界的流行や日本での69年ぶりのデング熱流行などを踏まえれば、感染症の診断や治療法を開発するためのBSL-4施設の設置は必要であると考えている。長崎大学は創立以来、伝統的に感染症対策に尽力され、今では国内でも有数の感染症研究者や医師が多い大学であると聞いている。BSL-4施設が設置され、日本の感染症研究の先導役になると思うと、地元住民もむしろ積極的に支援すべきであると考えている。
- △ 心強いご意見をいただき、ありがたい。建学以来、地域に根ざして歴史を積み重ねてきた大学として、今後も住民の皆様と一緒に共生していきたいと考えている。
- 先ほどの資料3-1の1(2)②についてであるが、有識者会議の検討結

果とは具体的に何を考えているのか、また、何時頃出す予定なのか。この会議はBSL-4施設を設置するまで続くのか。

- △ 前回、概ね議論が出尽くしてきたとのご意見もあったので、本日の議論次第であるが、事務局としてはまとめに入ることも考えており、あと1～2回程度で取りまとめていただきたいと考えている。

ただし、事務局内部では、今回の取りまとめを中間とりまとめとし、今後必要に応じて、不定期に開催し、ご意見をいただく会議として残しておいた方がいいのではないかという意見もあるので、この点についてもご意見をいただきたい。

テキサス大学医学部ガルベストーン校では、地域との連携を図るため、2つの組織を設置し、地域と共生した運営体制を構築していると承知している。例えば、この有識者会議を発展的に解消することもありうるものと考えている。

- 設置場所については、第1回の有識者会議における、坂本キャンパス以外のオプションはないのか、という委員からの質問に対し、種々意見交換を行った結果、長崎大学としては坂本キャンパスが最適地であるという結論を出している。有識者会議としても、坂本キャンパスありき、で議論した訳ではなく、きちんとした議論の中でこういう結果になったと整理すべきではないか。

また、資料3-2の新聞記事によれば、隣接自治会以外の自治会でもアンケートに反対と記載した住民もいるので、今後、住民説明会等を開催する際には、隣接自治会はもちろんのこと、それ以外の自治会の住民に対しても丁寧に説明することにより理解が深まるのではないかと。

- 資料4の1(1)に記載されているBSL-4施設設置の目的であるが、ワクチン製造が本質的な設置目的ではなかったのか。現在の記載内容は平板な主張で説得力に欠けるものになっているように思われる。本来の目的を4行程度で強調して記載し、それは動かさないという姿勢が重要である。

設置場所についても同じで、既に有識者会議で議論し、坂本キャンパスしかないという結論になっているのに、いろいろなことを記載して平板的な文章になってしまっており、住民の方々が不安を感じる原因になっているのではないかと。社会的にどう貢献するかというパラグラフも作ったりして、重要な文章は固定化させる努力をして欲しい。

- △ 今までの議論の成果を積み上げて、文章を磨き、再度ご提案したい。
- 目的、必要性、妥当性が少し弱いように感じるので、再度検討した方がいいのではないかと。
- 今日の資料はうまく書き過ぎていて、是非とも長崎大学に作りたい、という熱い思いが感じられない。話を聞けばわかるが、文章になるとそれが伝わってこない。
- 昨年12月に長崎県議会と長崎市議会において圧倒的多数の支持を受け、長崎県、長崎市及び長崎大学の三者による協議機関を設置することが議決されている。早急にその協議機関を設置し、そこでの協議内容を有識者会議に報告し、その内容も踏まえて有識者会議の取りまとめを行うべきではないのか。

- △ 本来は有識者会議と協議機関を同時並行して開催する予定であったが、協

議機関の設置が少し遅れているため、有識者会議から提示された検討課題をクリアするための方策として協議機関の場を活用できないかと考えている。

- 有識者会議は、結論を出すのではなく、大学に課題を突きつけて、それについての回答を求めると共に、現時点では回答できない、言い換えれば、今後検討せざるを得ない課題を洗い出し、オープンにしていく場であると考えている。

そういう意味で、有識者会議が結論を出すかのような取り扱いはしない方がよいと考えているので、誤解のないようお願いしたい。

- △ 有識者会議には大学からでは見えない観点からのご指摘をいただき、その回答について、ご理解いただけたもの、ご説明が不足しているものなどを整理し、今後検討すべき課題を明確にご指摘いただければ、と考えている。

残された課題の検討結果を検証する仕組みも必要であるため、有識者会議がその役割を担うことになる可能性もあるのではないかと考えている。

- 有識者会議には、意見のとりまとめではなく、論点整理を求めるということであれば、全然問題はない。今後、長崎県や長崎市と一緒に、その論点整理を材料にして協議していただくことが有識者会議の存在意義になるのではないか。この位置付けでよいか。

- 私もその通りだと考えるため、文章にこだわっている。論点整理の内容に基づき長崎大学がBSL-4施設設置計画をバージョンアップし、その後の住民への説明会等で提示することがよいのではないか。有識者会議が大学の代わりに住民に説明するというのはいかがなものか。

- △ そうしたことは考えていない、有識者会議に住民に対する説明責任があるとは一切考えていない。

- この論点整理は誰が誰に対して報告するものなのか。

- △ 本日配付した資料4は、有識者会議の名前で作成していただくものを、事務局である長崎大学がこれまでの議論を踏まえてたたき台として作成し、お示ししたものである。

- BSL-4施設の設置目的については、普段からの感染症研究や専門家の人材育成が必要だということを前面に出して、繰り返して説明していく必要がある。また、設置場所についても、大学が考えていることを正面からしっかりと説明することが必要である。

- 有識者会議の役割が、BSL-4施設の設置について賛成、反対を提示することなのか、それともBSL-4施設設置に向けた課題の洗い出しを行うことなのか、議論されていないのではないか。

- 資料1-1の有識者会議要項では、有識者会議は賛成、反対という結論を出すのではなく、BSL-4施設の設置に伴う課題について検討することとされている。

- そういうことであれば、資料3-1の1(2)②の記載内容は特に問題ないのではないか。

- 150年にわたって長崎大学が感染症とたたかってきた歴史や他大学に比べ多数の感染症研究者が属していることを強調する必要があるのではないか。

- 今後のスケジュールとしては、有識者会議として論点整理を行い、住民説明会等の開催の提案もありうると考えてよいか。

- 各自治会長に有識者会議での今までの検討経過を報告する必要がある、次回の有識者会議までに住民説明会等を開催するというのは時間的に無理であるとする。また、有識者会議の検討状況に関する説明を一般の人が理解

できる内容で作成して欲しい。

住民が一番聞きたいことは、万が一事故が起きた場合の補償を国が行うのか、長崎大学が行うのか、ということであり、この点を明確にしない限り、住民説明会等の開催はできないのではないかと。

△ 長崎大学としては、全てが決まるまで住民説明会等を開催できないとは考えておらず、課題が解決されるに伴い、逐次、説明会等を開催し、住民の方々のご意見を聞きながら検討を進めるというプロセスがいいのではないかと考えている。

● BSL-4 施設を設置するという前提で説明会等を開催するのであれば、最低限、事故があった時の補償を誰がするのか、責任体制を明確にして欲しい。

● 今まで2回、自治会員を対象として大学に説明会を開催していただいたが、内容が難しく、なかなか自治会員が理解出来ないのが現状である。

また、今後、BSL-4 施設の設置を推進していくのであれば、テロ対策など行政を巻き込んで検討していかなければならない問題もあると考える。長崎県議会も長崎市議会も賛成しているのであれば、長崎県や長崎市も責任を持ってこの問題に対応すべきであると考えている。

説明会等を開催する場合、説明を長崎大学がするのか、行政がするのか、検討していただきたい。

△ もっと一般市民の方々にご理解いただきやすい内容とすることを心がけたい。

また、もう少しで長崎県及び長崎市にもそれぞれの立場から対応いただくことになると考えているが、そうなっても説明は長崎大学が中心になって行うことになると考えている。

国の関与については、資料2の別紙3にあるように、内閣官房にエボラ出血熱等国際感染症対策に関するチームが組成されているが、その検討状況については十分に承知していない。現状では、国でもエボラ出血熱等国際感染症対策に関する検討が始まったようだ、としか言えない状況である。

○ 今後のスケジュールとしては、次回、本日の議論を踏まえて、住民説明会等をどうするか、について検討するというところでよいか。

△ 有識者会議として論点整理をしていただいた時点で、それをどう伝えるかもこの会議でご議論いただければ、と考えている。

○ 次回は、論点整理をもう少し練って、本日議論のあったところを検討することとしたい。

(3) 次回の開催予定について

次回の開催予定について、下記のとおり報告があった後、土曜日開催は考え直した方がよいのではないかと意見があったが、各委員に日程照会した結果、この日しか委員のご都合がつかないため、仕方なく決定したものである旨の説明とご協力の依頼があった。

次回の開催予定：平成27年7月4日（土）17時から

以上